

プラテュス πλατύς

No.
31

巻頭言

国民体育大会、ホノルルマラソン、そして吉田先生… 01

副学院長 遠山 晴一

北大を離れるにあたって

創成看護学分野 助教 リトン 佳織

02

新任教員紹介

基盤看護学分野 助教 大日方 裕紀 / 基盤看護学分野 助教 出塚 望 / 創成看護学分野 助教 小林 后 / 創成看護学分野 特任助教 羅 云潔 / リハビリテーション科学分野 助教 岡 優一郎 / 研究院長付(健康科学分野) 助教 秦 葳 / 研究院長付(健康科学分野) 助教 ペルマルサミー・パラスラマン

協定締結・海外だより・国際交流

豪州メルボルン大学と部局間協定を締結

国際連携室 室長 山内 太郎

チェンマイ大学の看護教員が来訪

基盤看護学分野 准教授 宮島 直子

05

特 集

① オープンキャンパス報告(2023年8月7~8日開催)

アドミッション実施委員会 委員長 宮崎 太輔

② 大学院保健科学研究院ホームカミングデー2023を開催

公開講座委員会 委員長 山内 太郎

③ 第9回 北大・部局横断シンポジウム報告

医用生体理工学分野 講師 松谷 悠佑

06

研究発表

北海道における子どもの非フタル酸系 可塑剤曝露レベルの変動について

健康イノベーションセンター One-Health 推進部門
特任助教 ラヘル・メスフィン・ケテマ
健康科学分野 教授 池田 敦子

09

同窓会だより②

会の名称変更とジンパ

北大保健同窓会 会長 岡田 一範

10

TOPICS

北大生協保健学科店に「ぽからショップ」が
オープンしました!

人命救助を行った学生に札幌市北消防署から
感謝状を贈呈

報告事項

11

platys



国民体育大会、
ホノルルマラソン、
そして吉田先生：

私が鹿児島県開催の国民体育大会(国体)への帯同から戻ってきた翌朝に吉田敏雄先生(北海道大学名誉教授)の悲報が入りました。吉田先生は平成8年まで本研究院の前身である医療技術短期大学部にて教鞭を取り、また、昭和47年から本学女子バレーボール部の監督、コーチ、OG会顧問をされておりましたので、多くの保健学科OB、OGがお世話になったと思います。実際、私が吉田先生の悲報を最初に伝えていただいたのは、女子バレーボール部OGの堤先生(医用生体理工学分野)でした。私が保健科学研究院に赴任した時、吉田先生は既に退官されておりましたので、保健学科での関わりはなく、吉田先生との出会いは2002年9月に高知県で開催された第57回国体夏季大会のときでした。国体では各都道府県選手団に医師の帯同が義務付けられておりますが、北海道体育協会(現北海道スポーツ協会)スポーツ科学委員会副委員長の青木先生(現 整形外科北新病院会長)の依頼により、この時に初めて北海道選手団本部役員として、国体に帯同させていただきました。この際に総監督として帯同された吉田先生とご一緒させていただいたのが、吉田先生とお付き合いの始まりです(写真)。その後、私は菅原 誠先生(現 松田整形外科記念病院理事長)の後任として、スポーツ科学委員会委員となり、北海道体育協会常任理事として、競技力向上を担当していた吉田先生と懇意にさせていただきました。吉田先生は2003年からホノルルマラソンに参加しており、私も2003年から2006年まで4回、ホノルルマラソンに参加しており(この

うちの1回はtop 5%)、ホノルルマラソン同級生ということで2013年には北大病院での主治医として、右膝痛に対してヒアルロン酸の関節注射を行い、10回目のホノルルマラソン完走をサポートさせていただきました。残念ながら大動脈解離手術のため、11回目のホノルルマラソン出場はなりませんでしたが、「術後の肺活量の衰えを抑えるためにオカリナを練習し始め、よく小学生の孫さんたちを付き合わせて自宅コンサートを開いておりました。」とのエピソードを吉田先生のご長男からいただいております。また、毎年、北海道マラソンでは北大体育館の前で教え子達の応援をされており、私にもいつも声援をかけていただき、40km付近のしんどいところでの吉田先生の声援はゴールまでの励みになっておりました。先生とお会いしてから21年が経ち、国体も来年から国民スポーツ大会となり、新たな幕開けの始まりとなります。先生が長年、力を注がれた北海道アスリートの競技力向上も北海道体育協会が今年度からスポーツ庁「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」に採択されたことにより、さらに加速されると思います。私もスポーツ科学委員会副委員長として、そして、吉田先生の戦友として、競技力向上に少しでも貢献できればと思います。また、北海道マラソンではもう吉田先生の直接の声援はありませんが、先生が見守ってくれると思い、吉田先生のランニングメイトとして、体力が続く限り、吉田先生の方も走り続けたいと思います。最後になりますが、吉田先生の安らかなお眠りを心よりお祈り申し上げます。

副学院長 遠山 晴一 / Harukazu TOHYAMA ++++++



吉田先生と初めてお会いした高知国体での北海道選手団本部の打ち上げのスナップ写真(前列一番左が吉田先生で、前列右から2番目が若かった頃の私です)

吉田敏雄先生のご略歴

長男 崇史様のご好意で拝見させていただいた吉田先生のエンディングノートを元に書きました

- 1933年 3月 北海道上磯町(現 北斗市)で出生
- 1949年 4月 函館工業高校機械科 入学
- 1952年 4月 北海道大学教育学部(体育専攻) 入学
- 1956年 3月 北海道大学教育学部 卒業
- 1956年 4月 北星学園女子高等学校 教諭
- 1958年 6月 北海道札幌北高等学校 教諭
- 1960年 11月 禎子様とのご結婚
- 1966年 4月 北海道大学教育学校 講師
- 1969年 4月 北海道大学教育学校 助教授
- 1980年 4月 北海道大学医療技術短期大学部 教授
- 1996年 3月 北海道大学 退官
- 1996年 4月 北海道大学 名誉教授
- 日本バレーボール協会 功労者表彰 受賞
- 北海道体育協会 北海道スポーツ賞 受賞

北大を離れるにあたって－退職のご挨拶－

創成看護学分野 助教 **リトン 佳織** / Kaori LITTON



先生方とのご縁をいただき様々な業務に携わっていた

この度、令和5年8月31日をもって、北海道大学を退職することとなりました。私は令和2年より保健科学研究院で勤務してまいりました。短い期間ではありましたが創成看護学分野で助教として、教育・研究に携わらせていただきました。創成看護学分野のみならず、多くの

いただいたことは貴重な体験となりました。歴史あるキャンパスで教員として勤務したことは、今後の人生の糧になりました。保健科学研究院の先生方、大学事務系職員の方々には温かくご指導、ご支援いただきました。この場をお借りして深く御礼を申し上げます。

最後になりましたが、北海道大学保健学科、大学院保健科学院、保健科学研究院の益々のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

新任教員紹介－就任のご挨拶－

基盤看護学分野 助教 **大日方 裕紀** / Hironori OHINATA



系研究科において博士課程を取得しました。また、博士課程に身を置きながら、国際医療福祉大学成田看護学部において教員を務めてまいりました。この度、本学にて

2023年4月1日付で、北海道大学大学院保健科学研究院基盤看護学分野の助教に着任いたしました。私は大学を卒業後、がん研究センター中央病院・NTT 関東病院で臨床経験を積んだのち慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科において修士、東北大学大学院医学

教育および研究に携わる機会をいただき、大変光栄に思っております。

研究では、化学療法で治療中の高齢者がん患者さんのフレイルの実態調査や緩和ケアにおける患者さんやご家族の複雑な状況で適切な治療やケアを提供するための医療システムに関する研究を行ってきました。新たな環境の中で看護学の発展に寄与する研究や教育を通じた人材育成など微力ながら日々努めていきたいと考えております。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

基盤看護学分野 助教 **出塚 望** / Nozomi DETSUKA



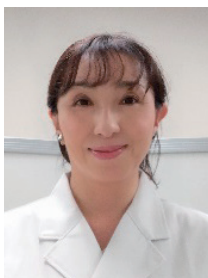
行っておりました。いつかは教育の現場に携わりたいとい

令和5年4月1日付で、北海道大学保健科学研究院基盤看護学分野の助教に着任いたしました。私は本学看護学専攻の4期生として卒業後、札幌市内の病院にて助産師として従事しながら、平成31年に修士課程を卒業いたしました。修士課程では、産褥早期の母子の睡眠や新生児の気

う希望があり、母校である北海道大学の教員として着任する機会を頂けて大変嬉しく、光栄に思います。

臨床での妊産婦さんたちの出会いから、生活を整える看護の重要性を改めて感じておりました。臨床経験を学生に伝えながら、自身も一緒に学んでいく姿勢を大切にしたいと考えております。教員、研究者として大変未熟ではございますが、皆様にご指導いただきながら日々研鑽を積み重ねる所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

創成看護学分野 助教 **小林 后** / Kisaki KOBAYASHI



令和5年4月1日付で北海道大学大学院保健科学研究院創成看護学分野に助教として着任いたしました。

私は看護大学を卒業後、しばらく看護師として医療機関に勤務しておりました。その後、保健師として企業や大学の健康管理室に従事し、社員や学生が健康保持・増進できるよう努めてまいりました。保健師として対応する中で、メンタルヘルス相談が激増したのをきっかけに、臨床心理学系の修士課程に進学しました。修士課程では大学学生相談機関に勤務して

いる心理職を対象に、多職種連携を含む学生支援はどのように判断されているのかというプロセスを質的に調査しました。在学中に公認心理師の国家資格も取得しました。人々のメンタルヘルス向上については、私自身が最も興味を抱いている研究分野であり、今後も高いモチベーションをもって取り組むことのできる研究テーマです。

着任後の現在は、メンタルヘルス向上の一環として産業保健領域における多職種連携モデル開発に向けた取り組みを進めております。保健学科学院の一員として貢献できるように全力を尽くして参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしく願いいたします。

創成看護学分野 特任助教 **羅 云潔** / Yunjie LUO



この度、令和5年4月1日付で北海道大学大学院保健科学研究院の創成看護分野にアンビシャス特別助教として着任いたしました。私は、本学院修士課程を卒業後、そのまま博士後期課程へ進学し、修了いたしました。

これまで、日本に在住する中国女性女性のメンタルヘルスを促進するために、情報提供のスマートフォンアプリケーションやオンライン子育てワー

クショップを含め介入プログラムを開発し、その効果を検討してまいりました。現在は、移民女性全体のメンタルヘルスを改善するために、多言語による介入プログラムの開発に取り組んでおります。

この度はご縁があり、長く学生生活を過ごしたこのキャンパスで、お世話になった皆様と共に活動する機会をいただけたことを大変光栄に感じております。至らない点が多々ございますが、保健科学研究院の発展にできるよう全力を尽くします。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

リハビリテーション科学分野 助教 **岡 優一郎** / Yuichiro OKA



令和5年4月1日付でリハビリテーション科学分野理学療法学専攻の助教として着任いたしました。埼玉県立大学理学療法学科を卒業後、博士前期課程・後期課程を経て博士研究員として変形性膝関節症に対する運動療法の効果に関する基礎研究を行ってまいりました。また、理学療法士としては整形外科クリニックや訪問看護ステーションでの臨床経験を積んで参りました。札幌は縁もゆかりもない土地ですが、素晴らしい研究者、優秀な学生が集う北海道大学でアカデミックとしてのキャリアをスター

トできることを喜ばしく思います。

前所属からの自身の研究テーマに加えて、所属する適応運動医科学研究室においては、中枢神経障害系の研究を行うチームの一員として、新たな分野にチャレンジできることを非常に楽しみにしております。整形疾患である自身のテーマとはやや遠い存在ではありますが、理学療法の本質とは何か、さらにはより効果的な治療を追い求めるために日々全力を尽くします。

微力ながら保健科学研究院の発展に貢献できるように尽力して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。



令和5年6月1日付で北海道大学大学院保健科学研究院健康科学分野に助教として着任いたしました。私は中国出身で、平成27年来日し、千葉大学大学院園芸学研究所の農産食品工学研究グループに在籍し、修士号・博士号を取得いたしました。その後、学術振興会特別研究員として千葉大学で研究を継続いたしました。その間、日本茶を機械製造する際の処理条件が茶葉自体および抽出された茶飲料の抗酸化性に及ぼす影響を研究し、日本茶の健康品質にも関わる製造条件の最適化が挙

研究院長付(健康科学分野) 助教 **秦 葳** / Wei QIN

げられました。また、他の植物性食品の機能性に関する研究を行いました。

北大地の素晴らしい自然の中で、優れた先生達と学生さんと一緒に研究し、そして教育ができることに私はとても期待を抱いております。学際的な色彩が強い本学だからこそ、実現ができる研究を推進していけるよう、日々研鑽を積んでいきたく、これまでの経験を活かして、健康科学分野の教育活動にも取り組む次第です。保健科学研究院の発展に貢献できるように尽力したいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

研究院長付(健康科学分野) 助教 **ペルマルサミー・パラスラマン** / Perumalsamy PARASURAMAN

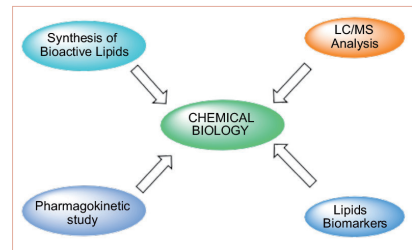


私はペルマルサミー・パラスラマンと申します。現在、北海道大学大学院保健科学研究院で助教をしています。

私はインド南部で生まれ、インドのタミルナドゥ州で化学の学士号と修士号を取得しました。その後日本に渡り、北海道室蘭市にある室蘭工業大学で博士号を取得しました。在学中は、さらに情報量の多い触媒の研究に取り組みました。卒業後は、東北大学、株式会社グリテック(仙台市)、北海道大学触媒化学研究所(ICAT)で博士研究員として勤務しました。保健科学研究院健康科学分野に就職する以前は、バイオシス株式会社で

博士研究員として勤務しておりました。

現在の研究テーマは、アミノ酸・アミノアルコール合成と触媒作用、ペプチド合成、糖鎖合成と創薬、フラボノイドとフラールレンの化学、生理活性脂質、コレステロールエステル、プラズマローゲン、カルジオリピンの合成です。主な研究分野は、コレステロールエステル、プラズマローゲン、カルジオリピンの合成で、LC/MS分析技術の評価と薬物動態研究を行っています。



研究テーマ



協定締結・海外だより・国際交流

Australia

豪州メルボルン大学と部局間協定を締結

国際連携室 室長 山内 太郎 / Taro YAMAUCHI

2023年9月4日から7日にかけて、矢野理香研究院長、山内太郎国際連携室長、澤村大輔教授、宍戸 穂助教、国際連携機構の植村妙菜 URA が北海道大学の戦略的国際連携校である豪州メルボルン大学(UoM)医学・歯学・保健科学研究院を訪問して部局間協定を締結しました。

両研究院の連携は、両校で2022年に立ち上げたマッチングファンドによって、高齢者医療、住環境における研究者交流が始まったことが発端でした。両校連携のキックオフイベントである2022年に開催した「ヘルシーエイジングに係るバーチャルコンファレンス」においても、双方に共通する関心について認識していました。

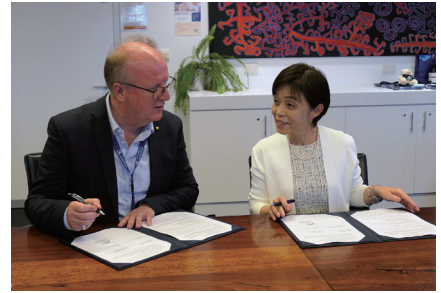
今回の訪問では、UoMの医学・歯学・保健科学研究院で国際連携を担当するマイク・マガキン副研究院長、研究担当のアリシア・スピトル准研究院長、ノサル・グローバ

ルヘルス研究所のキャシー・ヴォーン所長、ブルース・トンブソン保健科学

院長、マリー・ゲルト看護学科長、フィオナ・ドブソン理学療法学科長、アンドリュー・メータ検眼・視覚科学科長らと面談し、連携可能性を探りました。

また、ヘルスケアシステムのデジタル化によって臨床現場で生じ得るトラブルの検証を行う「健康デジタルトランスフォーメーションセンター」、研究者派遣を行っている地域医療機関「オースティン・ヘルス」、そして「メルボルンブレインセンター」、「看護学科および検眼・視覚科学科のラボを訪問して研究教育の現場を見学する機会に恵まれました。

訪問期間中に、澤村教授の検眼・視覚科学科およびフローリー脳科学・メンタルヘルス研究所での講演があり、聴衆から多くのフィードバックが寄せられました。その他、国際保健と地域連携、医療・看護人材の確保と業務管理・労働環境改善、認知症やアルツハイマー病を含めた脳科学、高齢者のイドヘルスケアなど、保健科学研究院/学院と連携可能な分野が多いことがわかりました。短期間でしたが、今後の発展が期待される有意義な訪問となりました。



メルボルン大学トンブソン保健科学院長と部局間交流協定締結署名



メルボルン大学の研究者と保健科学研究院の訪問団

Thailand

チェンマイ大学から看護学教員が来訪

基盤看護学分野 准教授 宮島 直子 / Naoko MIYAJIMA

2023年7月27日にチェンマイ大学(タイ王国)から14名の看護学教員らが来訪し、終始和やかな雰囲気の中、交流を深めました。研究院長の矢野理香教授の挨拶の後、宮島直子准教授から大学紹介、鷲見尚己教授から「Transitional Care in Japan」というテーマで講演がありました。講演の後には、北海道大学病院を見学し、半日のプログラムでしたが、お互いに実りの多い時間を過ごしました。



(上) チェンマイ大学から来訪してくださった皆さん
(下) 全プログラムを終了して、チェンマイ大学の皆さんと係の宮島直子准教授、大日方裕紀助教、雲杉学術研究員との記念写真

オープンキャンパス報告（2023年8月7～8日開催）

アドミッション実施委員会 委員長 宮崎 太輔 / Taisuke MIYAZAKI

特集

1

2

2023年度オープンキャンパスが8月6日(日)、7日(月)に対面開催で行われました。各日午前・午後の参加人数を200名、先着順の予約制としたところ、昨年度の2倍の定員であったにも関わらず、受付後早々に予定の人数に達しました。参加者の内訳は高校2年生が47.0%。1年生が31.3%と約8割を占めており(グラフ1)、2年生までに本学科の入学を検討しているケースが多いことを示す結果となっています。

学科紹介(15分)・専攻紹介(各5分)では本学科の教育理念、各専攻の修学内容や卒業後の進路について説明を行いました。その内容は本学科公式YouTubeチャンネルにアップロードしています(<https://www.youtube.com/watch?v=sLAKTKqGTeI>)。続いて各専攻の特色を活かしたプログラムを専攻探訪として実施しました。専攻探訪は参加者の中でも人気が高く、昨年度と同様5つの中から2つの専攻探訪を選択して参加するという形式を実施しました(表1)。昨年の課題であった参加者の移動に時間がかかるという点については、事前に整理券を配布することで対策しました。参加者からは概ね好評で、「2つの専攻探訪を訪問できるというのがとてもありがたかったです」等のコメントが寄せられていました。また、専攻探訪時に大学院生と直接触れ合う機会があったのも高評価の要因となっています。その一方で「予約時に各専攻の内容がわかるようにしてほしい」といった意見もあり、次年度の検討事項としていきます。

参加者のアンケートの内容から、参加者の多くは①本学科の特定の専攻への入学を希望しているが、他専攻の内容

についてはよく把握していない人、②他学科のオープンキャンパスを希望していたが抽選に漏れて本学科オープンキャンパスに参加した人、③本学科の修学内容や進路等を把握しないで参加した人、の3グループに分かれると予想されます。自由記載欄では、希望する専攻への入学意欲が強まったという感想も多い中で、志望していなかった他専攻や保健学科全体への興味が強まったというコメントも非常に多く見受けられました。オープンキャンパスに関わっていただいたすべての先生方の熱意が参加者へ伝わっていることを示す結果だと感じています。

最後に本学科を志望すると回答した高校生は26.4%、志望するかもしれないと回答した人は46.8%となりました。オープンキャンパス参加経験を持つ在学生も多く、入学希望者数の増加という点でオープンキャンパスの重要性が年々高まっているように感じます。次年度以降も多くの高校生を引き付ける素晴らしい内容で開催されることを祈念しています。

グラフ1

2023年度 オープンキャンパス参加者内訳

(未成年限定・未回答を除く)

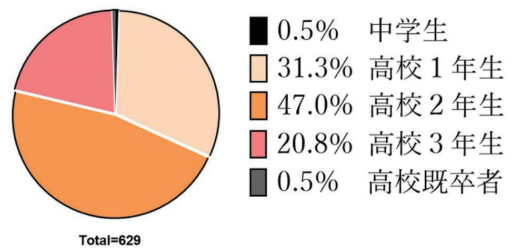


表1

	看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻
8月6日午前	コミュニケーションが良くなる仕組み	目に見えない放射線、体の中でどんな反応を起こすのか?	ようこそ不思議な細菌の世界へ～もう「バイキン」とはいわせない!～	目指せ Sports Physiotherapist!～スポーツ理学療法について学ぼう～	人の骨格、脳の標本を見てみよう
8月6日午後	命を救うスキルを学ぶ!急性期&救急ケア体験	最先端画像診断のからくりをお見せします	臨床検査を知ろう/大学院生と話そう	Exercise is Medicine!～運動による様々な効果を学ぼう～	日本のメンタルヘルスを守る作業療法士の仕事とは?
8月7日午前	個人の健康、地域の健康:地域の力で健康をつくる	CTの原理なぜ人体の断層画像が撮影できるのか	大学で学ぶ、はたらく細胞	ヒトの姿勢バランス能力とは!?!～複雑な姿勢バランスについて学ぼう～	作業療法はこころの病にどのように貢献できるか
8月7日午後	世界の健康、地球の健康:若者の力で社会を変える	放射線の測り方と医学における放射線の使い方	臨床検査を知ろう/大学院生と話そう	腰痛や足の怪我を予防するには?～整形外科領域での理学療法を学ぼう～	認知機能検査を体験しよう

大学院保健科学研究所ホームカミングデー2023を開催

公開講座委員会 委員長 山内 太郎 / Taro YAMAUCHI

特集

2

北

北海道大学では、学部卒業生や大学院修了生が大学に集い、世代を超えた親睦を深めることを目的とする「ホームカミングデー」というイベントを年に一度開催しています。今年は、9月30日(土)に行われました。例年通り、午前中の学術交流会館での全学の行事に引き続き、午後から保健科学研究所においてプログラムを実施しました。

昨年同様、今年も対面とオンライン(Zoom)のハイブリッドで実施しました。参加者は総勢28名と少人数でしたが、わざわざ保健科学研究所まで足を運んでくださった皆様、またオンラインでご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

矢野理香研究院長による開催のご挨拶に始まり、分野紹介において5つの分野(基盤看護学分野、創成看護学分野、医用生体理工学分野、病態解析学分野、リハビリテーション科学分野、健康科学分野)から最新の教育および研究活動と教員紹介が行われました。



矢野研究院長によるご挨拶

続いて行われた講演会では卒業生2名を講師としてお招きし、これまでの歩みや現在の活動状況などをお話いただきました。最初は本家寿洋氏(北海道医療大学リハビリテーション科学部作業療法学科・教授)による「生涯人生を楽しむための方法とは?」と題した講演でした。生涯の研究テーマとなった“余暇活動の楽しさ”について、現在取り組まれている認知症の方に向けた健康増進プログラム開発に至った経緯と、そのルーツとなった本学医学部保健学科の前身である医療技術短期大学の学生時代の経験についてお話をいただきました。

続いて、林泰弘氏(日本医療大学保健医療学部臨床検査学科・講師)から「複数検査分野のハザマで苦悩する中年男性技師」と題してご講演いただきました。臨床検査技師として勤務した大学病院の複数検査領域における経験、また現在の大学教員として感じるやりがいや楽しさと、同時に生じた苦悩や葛藤、これからのご自身の展望等についてお話をいただきました。

そして最後に医学部保健学科・医療技術短期大学部同窓会総会が行われました。

今年も昨年同様、対面とオンラインによるハイブリッド開催でした。残念ながら参加者は少人数でしたが、活発に質疑応答がなされ、盛況の内に終えることができました。より多くの卒業生、修了生、そして現役の学生、教職員にも参加していただけるよう、プログラムの見直しを考えています。来年も多くの皆様のご参加をお待ちしております。



本家寿洋氏による講演の様子



林泰弘氏による講演の様子

第9回 北大・部局横断シンポジウム報告

Report on the 9th Hokkaido University Cross-Departmental Symposium

医用生体理工学分野 講師 松谷 悠佑 / Yusuke MATSUYA

特集 / 3

令

和5年度10月11日、北海道大学内の若手研究者の交流と融合研究の創成を目的とし、第9回 北大・部局横断シンポジウム(The 9th Hokkaido University Cross-Departmental Symposium)が開催されました。本シンポジウムは、遺伝子病制御研究所および電子科学研究所を主管とし、当保健科学研究所を含め38部局の共催により、北大の機能強化事業として「新たな学際領域を生み出す異分野融合研究拠点をコアにした若手研究者育成」を実施されました(図1参照)。

昨年度に引き続き、本年度のシンポジウムもハイブリッド開催となりました。シンポジウムは、特別講演、DEI(Diversity, Equity & Inclusion)パネルディスカッション、口頭演題、ポスター演題で構成され、当日の参加者は800名に達しました。多くの参加者に恵まれ、北海道大学キャンパスにて多様な研究分野の成果発表が積極的に行われました。

特別講演では、「Universal Organocatalysts for our

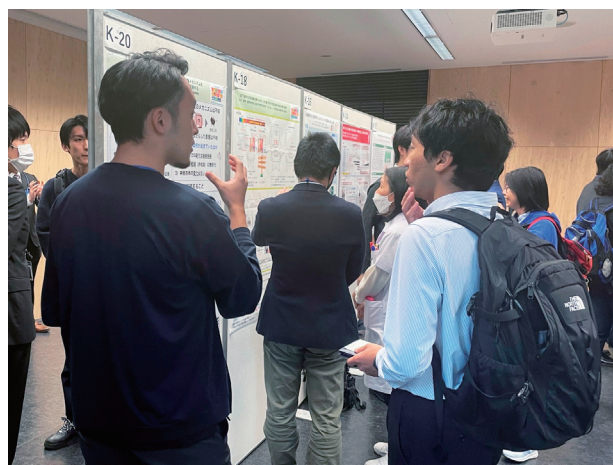


図2 ポスター発表会場

World」という題目にて、2021年ノーベル化学賞受賞者であるベンジャミン・リスト先生(北海道大学・特任教授)により、「有機触媒」についてご講演いただきました。講演後の質疑応答では、ノーベル賞受賞者と身近に議論する機会が設けられ、若手研究者にとって有意義な時間が流れていました。また、DEIパネルディスカッションでは、門出健次先生(先端生命科学研究院)をファシリテーターに、矢野里香先生(保健科学研究所)をコメンテーターにお迎えし、北海道大学における学術を起点とした世界の課題解決のためのDEIを進める方針について意見交換が実施されました。この議論では、Diversityをテーマに、男女共同参画、効率的な教育の在り方、そして研究の多様性について様々な意見が寄せられ、ダイバーシティについて熟考する貴重な機会となりました。さらに、一般演題発表セッションでは、口頭演題32件(フォトエキサイトニクスセッション6件、量子生命セッション4件、HFSPセッション3件、文理融合セッション3件、部局研究セッション(情報系、生命医学、物質材料系)14件、特別講演2件)およびポスター発表126件の多数の研究成果発表が行われました(図2参照)。ポスター発表の中には36件の研究助成対象発表も含まれ、若手研究者が自らの研究をアピールし、将来の異分野連携研究を進展させる貴重な機会となりました。

本シンポジウム終了時には、厳正なる審査を経て、優秀発表賞および研究助成金の採択者の発表が行われました。次年度以降も、北海道大学内の若手研究者の交流と融合研究の創成を目的に本シンポジウムは継続される予定です。多様な研究分野の一層の発展につながるよう、来年も皆様のご参加を心よりお待ちしております。

新領域創成に向けた若手連携の挑戦

日時:令和5年10月11日(水)
場所:ハイブリッド形式
北海道大学医学部フアラテホール、
医学部百年記念館

《特別講演》
北海道大学 特任教授
2021年ノーベル化学賞受賞
ベンジャミン・リスト 先生
※日本語通訳あります

参加登録
はこちらから
<https://www.ign.hokudai.ac.jp/bo/>

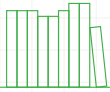
主催: 機能強化事業「新たな学際領域を生み出す異分野融合研究拠点をコアにした若手研究者育成」
主管: 遺伝子病制御研究所、電子科学研究所
共催: 樹医学研究、医学研究、保健科学研究、歯学研究、北海道大学病院、薬学研究、先端生命科学研究、
人獣共通感染症国際共同研究所、工学研究、理学研究、情報科学研究、水産科学研究、地球環境科学研究、
総合化学院、電子科学研究、低温科学研究所、触媒科学研究、北方生物圏フィールド科学センター、
アイトープ総合センター、医理工学院、文学研究、国際教育センター、化学反応創成研究拠点、法学研究科、
産学-地域協働推進機構、量子集積エレクトロニクス研究センター、iRAステーション、情報基盤センター、
北極圏研究センター、スラブ・ユーラシア研究センター、国際感染症学院、教育研究院、総合博物館、農学研究院、
遺伝子病制御研究所、メディア・コミュニケーション研究、経済学研究、人間知・脳・AI研究教育センター

後援: 北海道大学部局横断型シンポジウム等開催経費助成
文部科学省研究開発・推進拠点事業
文部科学省「数値及びデータサイエンスに係る教育強化事業」
フォトエキサイトニクス研究拠点事業
北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校校種研究会、
北海道青少年科学文化財団

SUSTAINABLE GOALS

北海道は持続可能な開発目標(SDGs)を達成しています

図1 部局横断シンポジウムポスター



北海道における子どもの非フタル酸系可塑剤曝露レベルの変動について

健康イノベーションセンター One-Health推進部門 特任助教 ラヘル・メスフィン・ケテマ / Rahel Mesfin KETEMA

健康科学分野 教授 池田 敦子 / Atsuko IKEDA

論文情報

Environmental Sciences and Technology 2023年 57巻 32号 11926–11936頁

Exposure Trends to the Non-phthalate Plasticizers DEHTP, DINCH, and DEHA in Children from 2012 to 2017: The Hokkaido Study

Rahel Mesfin Ketema^{a,b}, Monika Kasper-Sonnenberg^c, Yu Ait Bamai^{a,d}, Chihiro Miyashita^a, Holger M. Koch^c, Claudia Palmke^c, Reiko Kishi^a, Atsuko Ikeda^{a,b*}

a Center for Environmental and Health Sciences, Hokkaido University, Japan

b Faculty of Health Sciences, Hokkaido University, Japan

c Institute for Prevention and Occupational Medicine of the German Social Accident Insurance, Institute of the Ruhr-University Bochum (IPA), Germany

d Toxicological Center, University of Antwerp, Belgium

*Corresponding Author

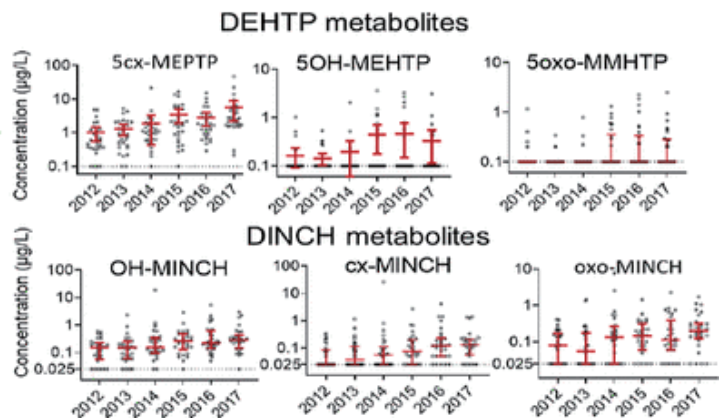
DOI : 10.1021/acs.est.3c03172

IF : 11.4、Environmental Science カテゴリーランキング 6.9%

研究成果のポイント

これまでプラスチック製品の可塑剤として添加されてきたフタル酸エステル類は、内分泌かく乱作用の懸念があり、日本を含め様々な国で使用規制の対象となっています。そこで、代替化合物としてテレフタル酸ジ-2-エチルヘキシル (DEHTP)、1,2-シクロヘキサジカルボン酸ジイソノニルエステル (DINCH)、アジピン酸ジ (2-エチルヘキシル) (DEHA) の生産量が増加しています。本研究では、日本人の7歳の小児180人を対象に、DINCH、DEHTP、およびDEHAの曝露レベルを調べることを目的としました。2012年から2017年にかけて、出生コホート「北海道研究」に参加する7歳の子どもから質問票と尿検体を収集しました。LC-MS/MSを用いてDEHTP、DINCH、DEHAの尿中代謝物濃度を測定した結果、2012年から2017年の間に、尿中DEHTP代謝物濃度は約5倍、DINCH代謝物は約2倍に増加していたことがわかりました。

DEHA代謝物はほとんど検出されませんでした。なお、欧州が定める耐容1日摂取基準値や、ドイツの健康基準ガイドライン値を超える推定一日摂取量を示した子どもはいませんでした。本研究は日本人の子どもたちを対象とした初めての研究で、フタル酸エステル代替物への曝露レベルを示す基礎データとなります。今後も引き続きこれら代替物の曝露レベルをモニターし、潜在的な健康影響を評価するためのさらなる研究が不可欠です。なお、本研究はドイツの予防・労働医学研究所との共同研究として実施されました。





9月30日(土)のホームカミングデー後に行われた同窓会総会において、北海道大学医学部保健学科・医療技術短期大学部同窓会は、北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・医療技術短期大学部同窓会(略称:北大保健同窓会)に改名することが決まりました。全体の名称は保健学科の歩んできた歴史を反映し、長くなっていますが、略称が定義されたので、そちらが浸透することを期待しています。引き続き「北大保健同窓会」をよろしくお願いいたします。

さて、北大生といえばジンパですね!コロナ禍前に卒業された方々は、学生時代に数えきれないほどジンパを体験したという方も少なくないと思います。そこで、来

年度の総会の後には、「保健学科前でのジンパの開催を目指そう!」という話が出ました。とくにコロナ禍で経験できなかった方々に、“北大のジンパ”の雰囲気味わっていただけたら嬉しいです。また、現役学生の皆さんや教職員の皆様にもご参加いただき、参加された方々に様々なつながりを持っていただければと思います。役員一同、実現に向けて準備していきたく思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

次年度も、9月の最終土曜日(9/28)にホームカミングデーを実施することが決定しています。皆様には今から手帳にご記入の上、同窓生とお誘いあわせの上ご参加いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

TOPICS

北大生協保健学科店に「ぼからショップ」がオープンしました!

7月10日(月)、北大生協保健学科店に「ぼからショップ」がオープンしました。「ぼからショップ」とは、札幌市北区にある就労継続支援B型事業所「ぼから」に通所している障害者の方々が手作りした製品を販売するコーナーです。この取り組みは、「ぼから」のみなさんと保健科学研究院、そして北大生協の賛同・協力のもとに実現しました。様々なバックグラウンドを有する人々との交流をどんどん進めていく活動のひとつでもあります。

ショップには丁寧につられたとても質のよい品物が並んでいますので、ぜひ足を運んでみてください。

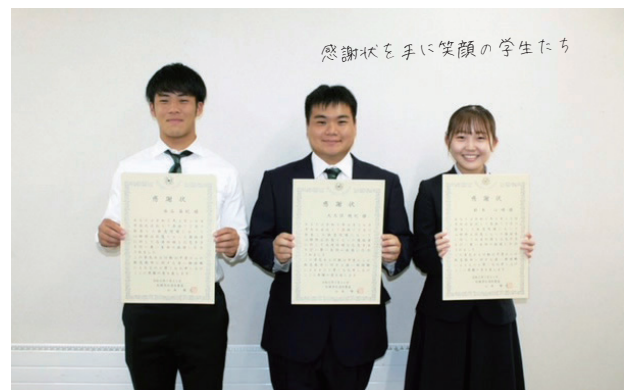


つるし飾りやオーチ、ヘアアクセサリーなどが並びます



オリジナルキャラの「ぼっからくん」

人命救助を行った学生に札幌市北消防署から感謝状を贈呈



7月31日(月)、札幌市北消防署において、人命救助を行ったラグビーフットボール部の部員3名に感謝状が贈呈されました。これは、4月16日(日)、体育館の屋内運動場で行われた新入生向けの体験イベントで、突然意識を失って倒れ心肺停止状態となった新入生に対し、その場にいた同部の部員の連携して人命救助を行い一命をとりとめたもので、医学部保健学科2年に在籍するマネージャーの鈴木心晴さんのほか、大久保穂紀さん(医学部医学科4年)、水谷英紀さん(工学部応用理工系学科4年)が中心的役割を担って救命活動を行ったことから、同部を代表してこの3名に感謝状が贈呈されました。

報告事項

保健科学研究院共催等イベントの実施状況（令和5年4月～令和5年10月）

イベント名	開催日	分類	保健科学研究院以外の主催・共催等組織
ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs」 無料で健康チェック！	2023.5.28	共催	株式会社アークス、株式会社ラルズ、株式会社ツルハ、北海道大学サステナビリティ推進機構
HSI サイドイベント WHOオフィサーと語る～地球の未来とSDGs～	2023.6.4	共催	WHOCC for Environmental Health and Prevention of Chemical Hazards、北海道大学環境健康科学研究教育センター
Hokkaido University-University of Melbourne International Workshop Indigenous Health: Exploring Perspectives, Well-being, and Community-based Approaches	2023.6.29	共催	北海道大学国際連携研究教育局 GSI、メルボルン大学 Indigenous Knowledge Institute
第8回作業療法神経科学研究会学術集会	2023.7.15	後援	作業療法神経科学研究会
HSI サイドイベント Environmental Experience Design to Improve Residents' Health and Wellbeing	2023.7.11	共催	北海道大学大学院工学研究院、メルボルン大学、ヴィクトリア大学
GCF国際シンポジウム Solutions to Address Food and Environmental Problems -Visions for the future of Africa-	2023.9.30	共催	北海道大学大学院農学研究院、GCF (Global Center for Food, Land and Water Resources)

保健科学セミナーの実施状況（令和5年4月～令和5年10月）

	開催日	講演タイトル	講師
2023年度 第1回*	2023.6.16	Building Environmental Health capacity in Pacific Island Countries to respond to detrimental climate and environmental change – challenges and opportunities	Prof. Paul Jagals (オーストラリア・クイーンズランド大学 / WHOCC for Children's Health and the Environment)
第2回**	2023.7.21	Alzheimer's disease and Cancer: An "old-age" diseases with an "age-old" solution	Prof. K. S. Rangappa (インド・マイソール大学)
第3回	2023.7.24	放射線影響区分の変遷と最新動向	浜田 信行 先生 (電力中央研究所)
第4回	2023.10.3	Nutritional properties and innovative food applications of sorghum grain	Prof. Thomas Roberts (オーストラリア・シドニー大学)

* 北海道大学環境健康科学研究教育センターと共催

** 協賛：杉野目記念会

FD研修の実施状況（令和元年度～令和5年度）

開催日	区分	講演内容	講師
令和元年度	保健学科	アクティブラーニング授業を行うための授業設計	北海道大学高等教育推進機構 高等教育研修センター 山本 堅一 特任准教授
	保健科学院	大学院生の教育・研究の進め方～メンターとしての役割～	健康科学分野 小笠原 克彦 教授 医用生体理工学分野 山本 徹 教授 創成看護学分野 平野 美千代 准教授

開催日	区分	講演内容	講師
令和2年度	保健学科	学生はオンライン授業をどう受け止めているのか	北海道大学高等教育推進機構 高等教育研修センター 山本 堅一 特任准教授
	保健科学院	選択型（例：ハラスメント防止研修会、シラバスのブラッシュアップ研修 等）	北海道大学全教職員向け FD・SD e-Learning 動画
令和3年度	保健学科	OECのお〜い知ってる？オンライン教育	北海道大学ハイブリッド型 授業ガイド動画
	保健科学院	選択型（例：オープンエデュケーションのすすめ、ハイフレックス型授業の実施方法 等）	北海道大学オープンコースウェア オンデマンド型動画
令和4年度	保健学科	コロナ禍における北大生の現状 ～学生のメンタルヘルスと障害学生の現状	北海道大学全教職員向け FD・SD e-Learning 動画
	保健科学院	大学の授業を極める	大阪大学オープンコースウェア ドラマ FD 教材
令和5年度	保健学科	保健科学院・保健学科学生の民間就職に向けたキャリアセンターの支援と課題	北海道大学高等教育推進機構 キャリアセンター 川上 あき 副センター長 藤井 伸之助 相談員
	保健科学院	大学における AI 利用のメリット・デメリット ～教育・研究の観点から	北海道大学情報科学研究院 情報理工学部複合情報工学分野 山本 雅人 教授

保健科学研究院研究助成制度対象者（令和5年3月～令和5年9月）

所属分野	職名	氏名	備考
基盤看護学分野	教授	矢野 理香	1編（内1編20%以内）
基盤看護学分野	准教授	大槻 美佳	1編
基盤看護学分野	助教	大橋 和貴	2編
創成看護学分野	准教授	平野 美千代	1編
医用生体理工学分野	教授	神島 保	1編
医用生体理工学分野	教授	石川 正純	1編
医用生体理工学分野	准教授	杉森 博行	6編
医用生体理工学分野	准教授	福永 久典	1編
医用生体理工学分野	講師	松谷 悠佑	2編（内1編20%以内）
病態解析学分野	教授	恵 淑萍	4編
病態解析学分野	教授	山口 博之	1編
病態解析学分野	准教授	櫻井 俊宏	1編
リハビリテーション科学分野	教授	前島 洋	1編
リハビリテーション科学分野	准教授	寒川 美奈	2編
リハビリテーション科学分野	准教授	長谷川 直哉	1編
リハビリテーション科学分野	講師	石田 知也	3編
リハビリテーション科学分野	助教	岡田 宏基	1編（内1編10%以内）
リハビリテーション科学分野	助教	越野 裕太	1編
健康科学分野	教授	横澤 宏一	1編
健康科学分野	教授	小笠原 克彦	5編
健康科学分野	教授	山内 太郎	1編
健康科学分野	教授	池田 敦子	1編（内1編10%以内）
健康科学分野	准教授	Bomme Gowda Siddabasave Gowda	1編
健康科学分野	助教	吉村 高明	1編

【研究助成制度】

対象：(1) 英文原著論文（査読有、IF有、first author）を執筆した教員
 (2) 英文原著論文（査読有、IF有）の corresponding author となった教員
 ※ ただし、(1)に該当する論文の corresponding author となった教員は除く

令和5年度科学研究費（文部科学省・日本学術振興会）採択一覧

研究種目	新規/継続	氏名	分野・職名	研究課題
基盤研究(A)	継続	田高 悦子	創成看護学分野教授	独居高齢者の社会的孤立予防に向けた民産官学共創 GP モデルの構築と社会実装研究
	継続	池田 敦子	健康科学分野教授	環境化学物質曝露による有害作用：ヒト疫学研究と動物実験による機序解明
	継続	尾崎 倫孝	基盤看護学分野教授	異なる特性をもつ二種類の光を利用した生体内深部組織の修復・再生法の開発
	新規	矢野 理香	基盤看護学分野教授	看護職の離職予防と就業意欲向上を目指す看護管理データベース開発と利活用の有効性
	新規	平野 美千代	創成看護学分野准教授	ICT 併用によるフレイル予防の社会活動プログラム：水平展開プロトコルの開発と検証
基盤研究(B)	継続	コリー 紀代	創成看護学分野助教	「教育と臨床の乖離」に架橋する在宅人工呼吸器複合現実シミュレータの開発
	新規	石川 正純	医用生体理工学分野教授	BaTiO ₃ 誘電体の放射線応答メカニズムの解明と超高密度多次元線量計への応用
	継続	松谷 悠佑	医用生体理工学分野講師	放射線飛跡構造の空間パターンに基づく DNA 損傷予測システムの開発
	継続	山口 博之	病態解析学分野教授	癌細胞との類似性から紐解く性器クラミジアの細胞内適応機構解明研究の新展開
	継続	石津 明洋	病態解析学分野教授	MPO-ANCA 関連血管炎発症機序の全貌解明と新規治療法の開発を目指して
	継続	前島 洋	リハビリテーション科学分野教授	薬理的神経制御を用いた新たな脳卒中運動療法の開発に対する生体脳イメージングの応用
	新規	前島 洋	リハビリテーション科学分野教授	薬理的神経制御が支える新たな脳卒中再生リハビリテーションの探求
	継続	千見寺 貴子	リハビリテーション科学分野教授	老化細胞ニッチを標的とした関節リウマチの制御と関節再生戦略の創成
	継続	横澤 宏一	健康科学分野教授	コミュニケーションの神経基盤—脳磁場ハイパースキャンニングによる脳間相関の描出
	継続	結城 美智子	基盤看護学分野教授	軽症脳卒中患者の病的疲労に着目したフレイル予防・改善のためのケアプログラム開発
	継続	鷺見 尚己	基盤看護学分野教授	当事者の経験評価に基づく外来在宅療養生活支援モデルの臨床的有用性
	継続	宮島 直子	基盤看護学分野准教授	Web 版対人スキル小集団訓練の持続可能な提供システムの構築
	継続	岩本 幹子	基盤看護学分野准教授	新型コロナウイルス感染症流行下における看護師の専門職倫理性とその葛藤
新規	佐藤 三穂	基盤看護学分野准教授	前立腺がん患者のアンメットニーズの解決により意思決定を支える看護介入モデルの構築	
継続	大橋 和貴	基盤看護学分野助教	GIS を用いた訪問看護のアクセシビリティの将来推計と可視化	
基盤研究(C)	継続	蝦名 康彦	創成看護学分野教授	ネットワーク分析による産後うつ病の精神病理の解明と個別化した支援の探求
	新規	松澤 明美	創成看護学分野准教授	障がいのある子どもの家族との共創による価値観に基づく子育て支援モデルの開発
	継続	加藤 千恵次	医用生体理工学分野教授	ダイナミック PET に検査における人工知能による動脈血放射能曲線の推定
	継続	神島 保	医用生体理工学分野教授	関節リウマチ破壊性変化定量解析システムの妥当性評価
	継続	杉森 博行	医用生体理工学分野准教授	脳虚血性病変における AI と Radiomics 解析を融合した予後予測方法の開発
	新規	高島 弘幸	医用生体理工学分野准教授	ミトコンドリア機能および筋細胞内脂肪に着目した疼痛発生メカニズムの解明
	新規	堤 香織	医用生体理工学分野助教	悪性神経膠芽腫の放射線抵抗性におけるニューロピリン 1 の役割と機能解明
	新規	恵 淑萍	病態解析学分野教授	新規抗酸化物質の糖尿病性腎症の有効性に関する研究
	継続	櫻井 俊宏	病態解析学分野准教授	ミトコンドリア機能障害に着目した酸化 HDL と NASH 発症機序の関連解明
	継続	田村 彰吾	病態解析学分野准教授	ライフステージに伴う血小板・巨核球造血微小環境の時空間的変遷の解明

研究種目	新規/継続	氏名	分野・職名	研究課題
基盤研究(C)	継続	大久保 寅彦	病態解析学分野 講師	ユニークな繊毛虫との相互作用から迫るレジオネラの新規エフェクターの探索と機能解明
	継続	遠山 晴一	リハビリテーション科学分野 教授	ウェアラブルセンサを用いた歩行解析システムの応用によるロコモの進行危険因子の解明
	継続	澤村 大輔	リハビリテーション科学分野 教授	慢性期外傷性脳損傷患者における認知機能トレーニングプログラムの確立
	継続	寒川 美奈	リハビリテーション科学分野 准教授	寒冷環境におけるダイナミックストレッチが筋腱力学的特性へ与える影響
	継続	宮崎 太輔	リハビリテーション科学分野 准教授	小脳における興奮・抑制競合を基盤とした回路形成維持機構の解明
	新規	石田 知也	リハビリテーション科学分野 講師	骨盤コントロールに着目した膝前十字靭帯再建術後の代償的運動制御メカニズムの解明
	新規	笠原 敏史	リハビリテーション科学分野 助教	高齢者の運動学習理論に基づく筋力調整トレーニングの開発
	継続	小笠原 克彦	健康科学分野 教授	レセプトデータによる医療・介護の経済分析と将来予測：GISによる可視化とAI予測
挑戦的研究(開拓)	継続	何 欣蓉	食品機能解析・保健栄養学分野 新任講師	筋腎連関によるビタミンKのミトコンドリアを標的とした新規作用
	継続	山口 博之	病態解析学分野 教授	建造環境の微生物叢の実態把握と応用：温度調節による新たな病原体制御理論の創成
	継続	山内 太郎	健康科学分野 教授	子どもたちと一緒に創る地域のサニテーション
挑戦的研究(萌芽)	継続	田高 悦子	創成看護学分野 教授	認知症共生社会に向けたICT-CIVIC TECモデルによる地域診断ツールの開発
	新規	近藤 祥子	創成看護学分野 准教授	生殖医療における基礎科学研究がもたらす研究成果の認識と医療職学生の死生観の育成
	継続	前島 洋	リハビリテーション科学分野 教授	エピジェネティクスが支える脳卒中再生リハビリテーションの探求
若手研究	新規	千見寺 貴子	リハビリテーション科学分野 教授	老化起源細胞から解明するHealthy agingと加齢性疾患の分岐点
	新規	大日方 裕紀	基盤看護学分野 助教	緩和ケアの必要性を示す尺度の信頼性の検証とディスカッションマップの開発
	継続	福永 久典	医用生体理工学分野 准教授	環境化学物質の曝露による母体血ミトコンドリアDNA量の変化と次世代への影響
	継続	益田 紗季子	病態解析学分野 講師	ベーチェット病患者唾液の好中球細胞外トラップ誘導能の低下原因の解明
	新規	村山 迪史	病態解析学分野 助教	新規低侵襲治療の普及にむけた3次元イメージングによる三尖弁逆流の重症度診断法開発
	継続	長谷川 直哉	リハビリテーション科学分野 准教授	パーキンソン病患者のすくみ足に対する新たな感覚フィードバック練習の考案
	継続	高島 理沙	リハビリテーション科学分野 講師	地域高齢者における作業ストーリーメイキングを活用したアプローチモデルの開発
	新規	宮島 真貴	リハビリテーション科学分野 講師	細胞老化に着目した自閉スペクトラム症の病態解明と新規治療探索
	新規	岡田 宏基	リハビリテーション科学分野 助教	精神障害者の自動車運転～症状の縦断的变化に対応した運転能力評価法、支援法の開発～
	新規	岡 優一郎	リハビリテーション科学分野 助教	マクロファージの賦活が創傷治癒メカニズムを介して軟骨代謝へ与える影響の探索
研究活動スタート支援	継続	Bomme Gowda Siddabasave Gowda	健康科学分野 准教授	Exploring the functional role of Hijiki in obesity-associated to sphingolipid metabolism
	継続	吉村 高明	健康科学分野 助教	前立腺癌に対するMR-Only尿導線量低減陽子線治療計画技術の開発
	継続	DIVYAVANI	健康科学分野 助教	Unrevealing the anti-obesity effects of wakame associated to sphingomyelin synthase inhibition
	新規	出塚 望	基盤看護学分野 助教	妊娠期からの睡眠特徴および随伴症状が産後うつ状態の経時的変化に与える影響
	新規	小林 后	創成看護学分野 助教	労働者の治療と仕事の両立支援に向けた産業看護職のための多職種連携モデルの開発
	継続	村山 迪史	病態解析学分野 助教	心房細動患者に適用可能な超音波ドブラ法による新しい右房圧推定法の確立
	継続	岡 優一郎	リハビリテーション科学分野 助教	変形性関節症に対する運動療法から迫るマクロファージを介した軟骨保護作用の解明

研究種目	新規/継続	氏名	分野・職名	研究課題
研究成果公開促進費 研究成果公开发表(B)	新規	山口 博之	病態解析学分野 教授	ようこそ不思議な細菌の世界へ：身の周りで共に生きる細菌達の生存戦略について
国際共同研究強化(B)	継続	山内 太郎	健康科学分野 教授	トイレを必要とする条件とは：狩猟採集民，農耕民，都市生活者の排泄と衛生条件の比較
	継続	池田 敦子	健康科学分野 教授	ベトナムの非正規 E-waste 処理地域における健康調査

共同研究、受託研究、学術コンサルティングの受入状況（令和5年11月時点）

所属・職名・氏名	件数	所属・職名・氏名	件数
基盤看護学分野 教授 矢野 理香	共同研究 2件	病態解析学分野 教授 惠 淑萍	共同研究 2件 受託研究 1件
基盤看護学分野 准教授 大槻 美佳	共同研究 2件	病態解析学分野 教授 山口 博之	共同研究 1件
創成看護学分野 教授 蝦名 康彦	学術コンサル 1件	病態解析学分野 准教授 櫻井 俊宏	共同研究 2件
創成看護学分野 准教授 近藤 祥子	受託研究 1件	病態解析学分野 准教授 田村 彰吾	受託研究 2件
創成看護学分野 助教 コリー 紀代	共同研究 1件	病態解析学分野 講師 大久保 寅彦	受託研究 1件
医用生体理工学分野 教授 石川 正純	共同研究 1件	リハビリテーション科学分野 教授 遠山 晴一	共同研究 2件
医用生体理工学分野 准教授 杉森 博行	受託研究 1件	リハビリテーション科学分野 教授 千見寺 貴子	共同研究 2件 受託研究 1件
医用生体理工学分野 准教授 福永 久典	受託研究 1件	リハビリテーション科学分野 講師 高島 理沙	受託研究 1件
病態解析学分野 教授 石津 明洋	共同研究 5件 学術コンサル 2件	健康科学分野 教授 山内 太郎	受託研究 1件 学術コンサル 2件

受賞状況（令和5年3月～令和5年9月）

所属・職名・氏名	受賞・表彰名称等	受賞論文/演題名・研究題目・受賞理由等
博士後期課程2年（当時） 保健科学コース・総合健康科学 會 怡 2023. 3. 3	第93回日本衛生学会学術集会 若手優秀発表口演賞	演題名：リン系難燃剤曝露と学童の喘鳴及びT2バイオマーカーとの関連
博士後期課程3年（当時） 看護学コース・看護科学 羅 云潔 2023. 3. 11	26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Best Oral Presentation Award	演題名：Effectiveness of internet-based mental health promotion intervention among Chinese women in Japan
修士課程2年（当時） 看護学コース・公衆衛生看護学 石附 史帆 2023. 3. 11	26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Best Poster Presentation Award	演題名：Importance of social support in improving health literacy: Characteristics among Japanese people in their 50s and 60s
修士課程2年 看護学コース・看護学 三坂 桃華 2023. 4. 5	日本看護技術学科第20回学術集会 優秀演題賞	演題名：腰背部温電法（丸山式）が自律神経活動に及ぼす影響
修士課程1年 保健科学コース・生体量子科学 毛 懿俊 2023. 6. 3	2023 ISMRM & ISMRT Annual Meeting & Exhibition 最優秀ポスター賞	演題名：RA Synovitis Segmentation Based on Unsupervised Learning & TIC Signal Data on DCE-MRI

所属・職名・氏名	受賞・表彰名称等	受賞論文/演題名・研究題目・受賞理由等
博士後期課程1年 保健科学コース・先進医療科学 小野田 愛梨 2023. 6.10	第48回日本超音波検査学会学術集会 THE YOUNG Generations Award 準優秀賞	演題名：超音波法を用いたスコアリングによるうっ血 肝診断と予後予測
博士後期課程1年 看護学コース・看護科学 中村 真弥 2023. 8.15	The International Lactation Consultant Association (ILCA) Journal of Human Lactation Best Research Article with a Practice Focus Award	論文名：An Evaluation of the Signs of Nipple Trauma Associated With Breastfeeding
保健学科4年 検査技術科学専攻 小林 澄夏 2023. 9. 7	第57回日本臨床検査医学会北海道支 部総会 学会賞	演題名：健康人における門脈血流の拍動メカニズム
博士後期課程1年 保健科学コース・総合健康科学 南 雄介 2023. 9. 9	第48回日本医用マスペクトル学会 年会 若手優秀ポスター賞	演題名：非標的LC/MSを用いたナマコ中の健康機能 性脂質の分析と同定

人事異動（令和5年4月～令和5年10月）

●令和5年4月1日

(採用) 大日方裕紀	基盤看護学分野 助教
出塚 望	基盤看護学分野 助教
小林 后	創成看護学分野 助教
羅 云潔	創成看護学分野 特任助教
岡 優一郎	リハビリテーション科学分野 助教
根本 英幸	生体応答制御医学分野(寄附分野) 特任助教
(昇任) BOMME GOWDA SIDDABASAVE GOWDA	健康科学分野 准教授

●令和5年6月1日

(採用) 秦 イ	研究院長付(健康科学分野) 助教
----------	------------------

●令和5年8月1日

(採用) PERUMALSAMY PARASURAMAN	研究院長付(健康科学分野) 助教
(昇任) 澤村 大輔	リハビリテーション科学分野 教授

●令和5年8月31日

(退職) リトン佳織	創成看護学分野 助教
------------	------------

●令和5年9月1日

(昇任) 石田 知也	研究院長付(リハビリテーション 科学分野) 講師
------------	-----------------------------

●令和5年10月1日

(昇任) 宮島 真貴	リハビリテーション科学分野 講師
------------	------------------

広報誌の名称

「プラテュス」の由来

保健科学研究院の玄関前には、大きな2本のプラタナスの樹があります。古代ギリシャの医者ヒポクラテスは、プラタナスの木陰で弟子たちに医学を説いたそうです。大きな広い葉をもつプラタナスは、ギリシャ語で「広い」を意味する platys (プラテュス、ギリシャ語では「πλατύς」と記す)に、その名が由来するとされています。本研究院が幅広い分野の専門家の集まりであることから、このプラタナスの語源になぞらえて「プラテュス」と命名しました。

プラテュス第31号 2023年11月

〈発行〉

北海道大学 大学院保健科学研究院 広報室
〒060-0812 札幌市北区北12条西5丁目

〈連絡先〉

医学系事務部 保健科学研究院事務課 庶務担当
電話 011-706-3315 E-mail shomu@hs.hokudai.ac.jp
ウェブサイト <https://www.hs.hokudai.ac.jp/>

